

崎浦公民館

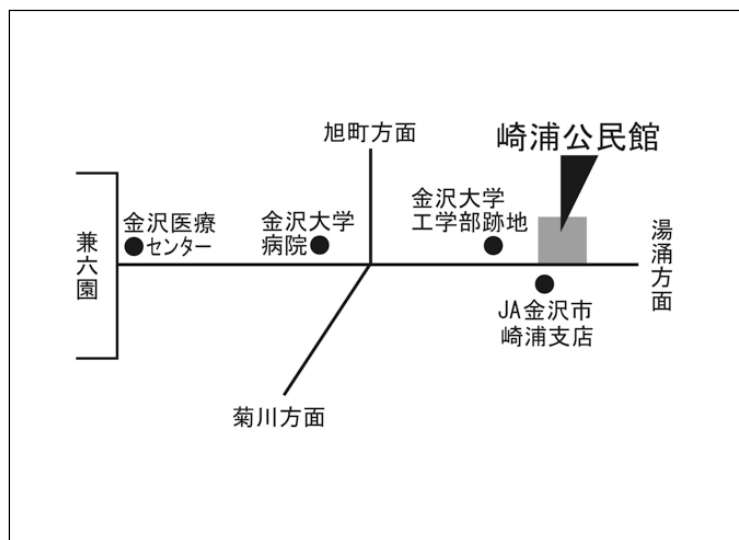
所在地	金沢市小立野2丁目41番36号
電話	076-231-6851
FAX	076-263-5842
メールアドレス	office@sakiura.jp
ホームページ	https://sakiura.jp



設置年月	昭和27年4月
ブロック	城東
対象区域	南小立野小学校、小立野小学校（一部）の区域
人口	15,040人
世帯数	4,392世帯
館長	太田 進
副館長	中川 義広、穴田 和夫、出口 制子
主事	三浦 近子
主事補	野上 外貴江
組織(部)	カルチャー部、グッドライフ部、体育部、レクリエーション部、広報部
運営審議会委員数	25人
公民館委員数	82人

施設区分	複合施設
建築年月	昭和62年4月1日
建築面積	488.959㎡
敷地区分	780.4525㎡
開館時間	9:00～21:00
休館日	毎週日曜日、祝日、年末年始
年間利用者数	約28,000人

MAP



公民館重点目標

地域の融和・安定・発展

公民館のサークル・教室活動

囲碁、社交ダンス、フォークダンス、音楽、太極拳、体操、パッチワーク、ヨガ、オカリナ、茶道、カラオケ、フラワーアレンジメント、太鼓、空手、自彊術、ソフトバレーボール、フレッシュテニス、バドミントン、バレーボール、伝承盆踊り保存会、塩硝の道検証委員会

公民館の特色・事業と取り組み

城東地区に属し、犀川、浅ノ川にはさまれた河岸段丘地帯にある崎浦公民館は、元崎浦小学校跡地にある。崎浦小学校は昭和34年3月石引小学校に統合され、70年有余年の歴史を閉じた。

その後も崎浦地区の発展は目覚ましく、人口の増加と共に昭和48年4月南小立野小学校が開校された。金沢市公民館設立の基準は、一校下一公民館が原則となっているが、崎浦公民館はその枠を超え、二校の小学校へ児童が通う広大な地域として現在まで発展を続けている。

河岸段丘地帯にみられる交通網の不便さも随時改良が進み、特に山側環状線の開通により、大桑地区が就業地として開発され発展を上げている。地域全体は住宅地で近年伸びは鈍化しているものの、いまだに漸増の気配である。地域周辺に小、中、高、短大、大学が林立し、文教地域としての観があり、インテリ層が多く、市内でも有数の犯罪率の低い住みやすい地域として、住民同士の安定、融和、協調も高い。只難を言えば、崎浦地域と称し人口に膾炙されているとはいえ、崎浦を冠する代表的な地名や建造物もなく、崎浦の名に実体がないことを憂えている。

地域住民の思いが通じ、山側環状線のトンネルに「崎浦涌波トンネル」と名付けてもらったり、それにつづく犀川を渡る橋に、「崎浦橋」と命名してもらった。旧工学部前交差点を「崎浦」と変更していただいたり、その努力が実ったのか北鉄バスの停留所も「崎浦公民館前」と好意的に変更された。今後も崎浦を認識してもらえる努力は続けなければならない。

取り組みについては、平成22年2月に国史跡に指定された辰巳用水に、平成25年3月27日土清水塩硝蔵跡が追加指定された。崎浦に存在する歴史的に非常に重要な歴史遺産を未来に残すため、国史跡指定記念事業を毎年継続して行い周知していく。

公民館の予算

歳出予算総額	26,395千円
うち人件費	7,744千円
うち管理費	9,892千円
うち事業費	8,759千円

歳入予算のうち

金沢市の運営委託費	16,283千円
地元負担金	3,020千円

その他の概要

館報発行回数	年2回
地域へのお知らせ回数	月1回
管理人の設置	無
他都市・公民館との交流	有
AEDの設置	有

施設

1階

コモンスペース、調理実習室

和室（老人いこいの家）、事務所

2階

研修室（18人）、図書室

ホール（100人）

利用できる設備

プロジェクター、オーディオ・ビデオ機器

館内平面図

